

年 頭 所 感



北海道知事 高 橋 はるみ

新年明けましておめでとうございます。

私が北海道知事として四期目の舵取りを担わせていただいているから、初めての新春を迎えることができました。北海道医師会の皆様には、平素から道政各般にわたり、深いご理解と温かいご支援を賜り、心から感謝を申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、道内においては、昨年度に本道を訪れた外国人客が約154万人と3年続けて過去最高を更新したほか、本道の最大の強みである食と観光の分野では、高い目標を掲げた上で、ミラノ国際博覧会をはじめ国内外での北海道ブランドの積極的なPRや新千歳空港の深夜・早朝時間帯の発着枠拡大など、全庁を挙げて取り組んできたところであり、将来に向けて力強く歩みを進めることのできた一年であったと考えています。

また、医療・福祉の分野においては、これまで、道央、道北、道東圏に導入してきた3機のドクターヘリに加え、昨年2月には、4機目となるドクターヘリを道南圏に導入し、唯一の空白地域となっていた十勝圏においても、隣接する道東と道北ドクターヘリの運航圏域の拡大により搬送が可能となり、道内全域でドクターヘリによる救急医療体制を確保することができました。しかしその一方、団塊の世代が75歳以上となる2025年を見据えた地域医療体制の確保が急務とされており、平成26年6月に成立した「医療介護総合確保推進法」により、都道府県は、「地域医療構想」を策定して医療機能の分化・連携、在宅医療の充実を図ることなどが求められています。

こうした中、道としては、地域での議論を深めながら「地域医療構想」の策定に向けての取り組みを加速するとともに、消費税増収分を財源として創設された「地域医療介護総合確保基金」については、「地域医療構想」の達成に向け、医療機関の整備や医療従事者等の確保・養成に活用していくなど、地域にふさわしいバランスのとれた医療機能の分化と連携の推進に取り組んでまいります。

また、道政上の重要課題である医師確保に関する取組については、北海道医師会や北海道病院協会、医育大学のご協力のもと、「緊急臨時的医師派遣事業」などの即効性のある対策を行ってきているほか、中・長期的な対策として、地域枠を設けた修学資金

制度を創設し、今年は、その第1期生が地域での勤務を開始することとなり、医育大学で取り組まれている入試制度による地域枠医師とともに、地域医療への貢献や地域偏在の解消につながるものと期待しています。

さらに、広大な面積を有し医療資源の地域偏在が著しい本道においては、救急医療体制の確保は重要であり、昨年11月から道内全域でのドクターヘリによる救急搬送が可能となっておりますが、今後においても、基地病院や関係機関・団体の皆様のお力添えをいただきながら、一人でも多くの尊い命を救えるよう救急医療体制の確保・充実に努めてまいります。

道といたしましては、地域医療の第一線でご活躍されている北海道医師会の皆様との連携をさらに深めながら、今後とも、保健・医療・福祉の推進に努めてまいりますので、一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

新しい年が、皆様にとりまして、希望に満ちた幸多き年となりますよう、心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。